

実施日：令和8年6月4日（木） コマ：2

事業名：日本博を契機とした観光コンテンツの活用

【とりまとめコメント】

・修正されたロジックモデルは、収入増に偏った効果発現の経路となっていて、本事業の目的・現状・課題に適ったものではない。目的等に示された、事業の形成、担い手人材の育成、連携体制の構築、自走化、（成功のための）知見の獲得と他地域への共有、全国レベルでの好事例の拡大等がインパクトなり長期アウトカムに示されるべきで、これにつながる効果発現の経路をあらためて検討し、アウトカム等を再設定すべき。

・文化芸術によるインバウンドの増加と地方誘客という目的は、札幌、京都、別府では各地事情が異なると思う。特にオーバーツーリズムになっている京都が3期連続採択されているのは疑問もある。モデル事業的にその成果を横展開するための材料とするのであれば理解するが、そうではないなら、アウトプット、アウトカム指標の設定上、考慮すべき点がないか、その成果の読み方（評価の仕方）は研究いただきたい。

・本事業は、専門人材を活用することによって、文化芸術事業数、インバウンド人数や収入の増加を狙う事業であるところ、どのような課題であればどのような専門人材が有効なのか、専門人材のデータベース化など、専門人材のミスマッチが起きない仕組みづくりを行う必要があると考える。また短期アウトカム指標に、専門人材に対する満足度（開催団体など補助対象の自治体以外）を含めることを検討されたい。

・地方への誘客促進、文化観光等による地域経済の活性化という目的からすれば、目指すべきアウトカムは、短期・中期的には、（特に地方への）訪日外国人参加者数の増加、消費増と単純で足りるように思う。地方の文化を生かしつつ、かかる効果を得るための事業手法についてより精緻に検討していくことが必要ではないだろうか。

・アウトカム指標として動員数（訪日外国人参加者数）や自己収入率を挙げたり、事後評価を導入したりと大きな改善が見られるが、消費単価向上や地域経済への波及効果の方も将来的に検証対象として頂きたい。また、効果の発現を重視すると指標によってはビッグビジネスを支援をすることが結果的に効率性を高めることにならないかという懸念も残ることから、文化的な観点からの検証も必要か。

・補助対象者が固定され、かつ実績評価も十分ではないまま、継続的に補助金が出ている印象が強い。支援期間を区切るなどして、より良い（可能性の高い、潜在的可能性の高い）地域を探索する仕組みが必要だと思われる。

【外部有識者のその他コメント】

- ・本事業のようなモデル事業については、全体への展開まで俯瞰した効果発現の経路が求められることを省全体にも徹底されたい。
- ・対象都市の選択の過程がわからないが、インバウンドの増加、地方誘客という政策目的からすれば、東京、大阪、京都は外すべきではないかとの感想をもった。
- ・募集要項の改訂やインバウンドの観点では発展途上の都市圏の地域の組み入れも高く評価できる。収益面での自走化等の目的に対する地方の事例の共有も有効と考えますが、本事業の他の側面である地方性や文化性についても適切に評価できるような指標の設定および特に地方での、または、地方職員が活用できるノウハウの蓄積もご検討いただきたい。また、単なるアウトプットや収入増の測定にとどまらず、自走化の検証により、自治体・事業者の自立や成長を図っていくことも重要。
- ・インバウンドを増やすためには、我が国の魅力の向上が必要である。そして、その魅力の1つが「文化」である。観光庁は、文化を観光と結びつけるためのノウハウ（人材）を蓄積すべきである。

（以 上）